

松下電器／SEAN 啓発ツール開発プロジェクト 記念寄稿
NPOと企業の協働

松下電器産業株式会社 社会文化グループ
 ファイランソロピィ・メセナチーム 松吉 徹也

皆様、はじめまして松下電器の松吉です。今回は昨今注目を浴びつつある「NPOと企業の協働」について思うところを書かせていただきます。

言つまでも無いことですが、我々を取り巻く社会課題は社会のグローバル化等の影響を受けて複雑化かつ多様化して来ています。社会課題の解決に向けて一つのセクターだけではなく、様々なセクターが様々な角度からの取り組みによって効率的かつ有効な策を講じなければ根本的な解決が得られない状況になって来ているのではないのでしょうか。

企業の特質として「組織マネージメント力」「プロジェクトマネージメント力」に優れ、資金的にも比較的余裕があると言えます。一方のNPOは「マネージメント

力」や「資金力」は劣るものの、特定の課題については世界の最先端の情報を掴み、軽い組織で迅速かつ柔軟な対応が出来る特質があります。お互いの得意な面を活かして、お互いの不得手な面を補完し合えば、「NPOと企業の協働」は社会課題の解決に向けて有効に機能する事を証明する事例が散見される様になって参りました。

「多様性」。色々な意味で使われますが、「色々な物がバランス良く存在する状態は、それが組織である自然界であれ、多様性が無い状況（単一性）に比べて様々な変化に対して安定した状況を作りだす」といった使われ方をします。企業やNPOが各々単独に持ちうる情報から独自に意思決定をして活動をするよりも、全く違う文化背景を持つ組織との協働から導きだし

た活動が、より効果的に作用する事も言い表しているかも知れませんが、ただし、良い事があれば悪い事があるのも世の常です。企業とNPOは「組織のミッション」「意思決定プロセス」「組織・プロジェクトマネージメント手法」などの文化背景も異なれば、極端な事を言えば話す言語も異なります。

不得手な面を、それを得意とするカウンターパートナーにまかせる事によって効果的な活動に出来る事が出てくるのですが、そこには互いの信頼が不可欠です。ところが実際に前述べの文化的な違いが高い壁となってしまう事が多く見られます。企業が資金提供をしNPOがノウハウ提供をするケースが実際には多いのですが、企業は資金を出したのだから進め方は企業のやり方で…と考えてしまい勝ちです。もちろん、そんな感覚では協働作業はギクシャクして本来得られた成果に届かない事態も起こります。

要するに「NPOと企業の協働」においては、どちらの組織からも歩み寄りが必要かつ重要です。お互いの違いを理解をして、相手が出来ない事は逆に自

分の側で対応する位の気持ちで臨むのがいい結果を生む事につながるかも知れません。

SEANさんが活動をされているジェンダー問題のフィードも同じ事が言えると考えています。様々な考え方がある中で、その違いをお互いが耳を傾け理解に努める。そんな過程で相互理解が生まれ課題は解決に向かうのではないのでしょうか。

今回は啓発用DVDの制作に多大なるお力を頂戴いたしました。社会課題の解決に向けて行われる活動の中で、事実を啓発する事は最も重要な事だと考えています。新聞・テレビ・インターネット等で情報は溢れています。社会課題の解決へのアクションはその課題が自分と何らかの関係がある事を認識出来る始めて実行されます。自分とのつながりが感じられない限りは本気の行動は起こらないと言っても過言ではありません。今回のDVDがより良き社会の実現に向けて様々なシーンで活用される事を願っております。どうぞ、今後ともよろしくお願いたします。ありがとうございました。